

平成24年

季刊

夏季号

Vol.43

亞東



台北駐日經濟文化代表處代表・沈斯淳閣下 林則媛令夫人



社団法人亞東親善協會

The East Asian Friendship Association

社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七一五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で、昭和二十四年（一九四九年）東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。

第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。

その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、昭和四十七年（一九七二年）の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち昭和四十六年（一九七一年）、千葉三郎先生（衆議院議員、労働大臣）は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り自ら發起人となり同年五月二十九日『社団法人亜東親善協会』（外務省認可）を設立したのであります。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、原先生の意を受け、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二十一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が十年にわたって会長を務められ協会の発展にご尽力されて参りました。

現在、アジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。しかしながら、日本も含めた領土問題などの紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴うエネルギー環境問題なども山積します。かかる情勢の中で、元総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎えし、アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、陣容を強化し、英知を結集して努力を続けております。

社団法人亜東親善協会・概要	二頁
社団法人亜東親善協会・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
定例理事会【七月】	四頁
社会見学会・国会見学会案内	五頁
駐日新代表着任・挨拶	六頁
駐日新代表沈斯淳閣下・プロフィール	七頁
前駐日代表馮寄台閣下・辞任の言葉	八頁
双十國慶節祝辞・沈斯淳閣下	九頁
お知らせ・編集後記	十一頁

.....

社団法人亜東親善協会顧問

(順不同・敬称略)

沈 斯 淳	中 田 宏	今 井 正	齋 籐 毅	毛 友 次
林 錦 清	小 田 村 四 郎	黄 清 林	林 瑞 祥	長 尾 孝 則
楊 作 洲	李 海 天	施 梨 鵬	鄭 尊 仁	李 純 京
羅 王 明 珠	謝 文 政			

社団法人亜東親善協会理事

[会 長]	安 倍 晋 三			
[会 長 代 行]	大 江 康 弘			
[副 会 長]	張 建 國	張 碧 華	山 本 順 三	
[業 務 執 行 理 事]	崎 谷 秀 彦	赤 松 則 宏	益 山 茂	並 木 正 芳
[広 報 担 当 理 事]	南 部 晴 彦			
[理 事]	千 葉 健 司	小 松 省 二	橋 本 靖 男	仲 谷 俊 郎
	東 達 夫	新 井 秀 子	李 ハ ロ ル ド	松 永 理 恵 子
	多 忠 和	三 浦 信 行	伊 野 雅 晴	柴 田 徳 文
[監 事]	荘 司 隆 一	藤 山 雅 康		
[支 部 長]	青 森 県 ・ 大 見 光 男	岩 手 県 ・ 高 橋 義 麿		
	茨 城 県 ・ 石 川 多 門	広 島 県 ・ 月 村 俊 雄		

定例理事会

平成二十四年七月十七日十五時
砂防会館・四階会議室

一、開会（出席理事数報告）

二、会長挨拶

衆議院議員・安倍晋三新会長は、会長就任後初めて七月十七日の理事会に出席され、御挨拶をされました。

会長は、「アジアの平和と繁栄のために発祥した『華南俱樂部』が組織の強化発展のため昭和四十六年五月に本協会を設立するに際して、祖父であられる元内閣総理大臣・岸信介先生が、深く関わられたためもあり、本協会に対し事の外思い入れが強く、その役割の大きさを踏まえての活発な活動を期待して来ました。

今般会長に就任し、率直に申し上げれば、昨今の本協会の活動は、現状維持の守りの姿勢で内向きとなっている感じがします。

グローバル化する国際情勢の中で、台湾などのアジア諸国との関係はますます重要さを増しており、多方面での交流の拡大を図っていく必要があります。

そのため本協会も、経済・産業界を含め、台湾などアジア諸国に関心の高い民間の有力者の方々に積極的に働きかけるなど、新会員の獲得に努めて組織の活性化を進めて行きたいと思っておりますので、理事皆様には、ご協力をお願い致します」など、本協会の役割を認識し活発な活動を展開して行くべき旨の抱負を述べられました。

三、議事

1、報告事項

○平成二十四年度訪華団報告

・業務執行理事・並木正芳

六月二十五日から二十八日まで

団長・玉澤徳一郎名誉会長

訪問団総数 二十六名。

訪問地、高雄市・台北市。

東日本大震災に際しての台湾

国民からの多大なるご支援と友情あふれる励ましに対し日本の

人々の心底からの謝意を伝えて

参りました。

報告書は、季刊「亜東」

平成二十四年夏季号に掲載

○平成二十四年四月～六月

会計月次報告

・財務担当理事・赤松則宏

2、協議事項

○社会見学会の実施計画

・広報担当理事・南部晴彦

平成二十四年十一月八日

独立行政法人海洋開発研究機構

電源開発(株)磯子火力発電所視察

懇親会・横浜中華街均昌閣
会員及び家族対象

○国会見学会（留学生対象）

・広報担当理事・南部晴彦

平成二十四年十一月二十八日

国会議員との昼食懇談会

国会議事堂見学会

協会役員出席します。

○業務執行理事補充選任の件

・赤松則宏財務担当理事を

業務執行理事に選任、承認。

○新法人移行申請について

・業務執行理事・崎谷秀彦

移行申請についての経過説明。

年内に、関係省庁と最終調整。

○十二月理事研修会

十二月十一日十八時

開催場所・明治記念会

今年、広く顧問・会員及び

関係団体等にも呼びかけをす

ることになりました。

社団法人亜東親善協会主催・国会見学会

本年は、午前中・防衛省（市ヶ谷）見学
午後、国会見学会、(国会議員との昼食懇談会
国会議事堂見学会を行います。

開催日時 平成 24 年 11 月 28 日 水曜日
集合時刻 9 時 15 分（時間厳守）

【JR 市ヶ谷駅・四ツ谷駅より徒歩約 10 分】

募集人員 30 名（窓口・留日東京同學會）
集合場所 防衛省正面入口（市ヶ谷）
見学先 防衛省：新宿区市谷本村町 5-1
Tel 03-3268-3111

庁舎 A 棟前・儀仗広場
市ヶ谷記念館
厚生棟（休憩・売店）
屋外ヘリ展示場
殉職者慰霊碑
広報展示室

*パソコン又は写真付証明書を携帯して下さい。

国会議事堂見学会・国会議員懇談会

開催日時 平成 24 年 11 月 28 日 水曜日
集合時刻 11 時 50 分（時間厳守）

集合場所 参議院面会所前

開催場所 参議院議員会館会議室

12:00 昼食・国会議員懇談会

13:20 国会議事堂（参議院）参観
国会議事堂正面・記念撮影 解散



昨年見学会・小泉進二郎衆議院議員

社団法人亜東親善協会主催・社会見学会

開催日時 平成 24 年 11 月 8 日 木曜日
集合時刻 8 時 *出発時刻 8 時 15 分
集合場所 参議院面会所前

【専用バスにて、視察・横浜中華街で解散】

参加費 5,000 円

見学先

10:00~12:00

独立行政法人海洋開発研究機構・視察

横須賀市夏島町 2 番地 15 Tel 046-867-9970

我が国における海洋科学技術の総合的な研究開
発機関として、海洋に関する基盤的研究開発、
学術研究に関する協力等の業務を行っています。
研究設備：船舶・地球深部探査船ちきゅう・他
潜水艦・探査機・有人潜水調査船等

12:30~13:30 昼食

横浜テクノタワーホテルファミール 2F

14:00~16:00

電源開発株式会社磯子火力発電所・視察

横浜市磯子区新磯子 37-2 Tel 045-788-0281

昭和 42 年 国の石炭政策に沿って建設され、
平成 14 年 粉末になった石炭で、何千本の細
いパイプで高温・高圧の蒸気をつくる設備を導入し、
環境負荷低減とエネルギー効率向上を世
界最高水準で両立したコンパクトな最新都市型
石炭火力発電所です。

発電出力は 120 万 KW、煙突（2 缶集合型）
の高さは 200m

16:30 中華街バス下車。中華街散策。

17:00~19:00 夕宴懇親会

中華街・均昌閣 Tel 045-681-0701

ゲスト：海洋開発研究機構・電源開発

横浜華僑總會・代表處横浜分處他。

現地解散。

駐日代表着任の挨拶

台北駐日經濟文化代表處

代表 沈 斯淳 閣下

台湾と日本は歴史的、地理的な関係が深く、さらには自由、民主主義、法治などの価値観を共有し、長年にわたる各界の人々の努力の下、経済・貿易、人的往来、文化、科学技術等のいずれの分野の交流も、大きな進展がありました。

特に前任の馮寄台代表の三年余りの在任中に、台日間はワーキングホリデー協定、協力強化覚書、投資協定、台日特許審査ハイウェイ覚書などに調印し、航空協定改正の交換公文を交わし、台北松山空

港と東京羽田空港の直行便就航およびオープンスカイ（航空自由化）が実現しました。

そのほか、我が国の駐日代表處札幌分處の開設、台北文化センターの開設、日本の国会での海外美術品等公開促進法成立によって台北の故宮博物院の文物が今後日本で展示できるようにするなど、目に見える具体的な成果がありました。

馬英九總統は私と接見した際に、外交は内政の延長であり、政策の正確さが最も重要であると述べました。二〇〇八年五月に馬總統が就任して以来、活路外交の政策を採ったことにより、台日関係は顕著に向上し、改善されました。

私は着任後、台日間においてすでに構築されている良好な基礎の上に、引続き努力してまいります。今後、日本に對する実務の重点としては、各界関係者との交流強化、相互信頼関係の確立であり、経済面では、昨年九月の台日投資協定の調印後に続く、両国の企業協力の強化、二国間の貿易および投資関係の開拓・発展、中国大陸市場への共同進出といったトリプルウィン

の状況を構築することです。

また、文化および観光面では、国立故宮博物院の日本での展示を行うことについて全力を挙げて協力していくものであり、また同時に、両国国民の相互訪問の促進も継続的に行ってまいります。

東日本大震災後の復興再建面では、我が国は台湾中部大地震（一九九九年に発生）および台風八号水害（二〇〇九年に発生）の復興再建の経験を提供いたします。

長年にわたり、公益財団法人交流協会、日華議員懇談会など、日本各界の友好組織の関係各位による多大なる協力により、台日関係に具体的な進展が見られたことに、私は敬服ならびに感謝の念を表するものであります。

また、今後は双方間の交流がより密接になり、引続き台日友好協力関係のために、共に努力してまいりたいと願っております。

（台湾週報）



台北駐日經濟文化代表處代表
沈 斯淳閣下・プロフィール

沈 斯淳 (S s u - T s u n S h e n)

生年月日： 1953年9月

学 歴： 1975年 國立臺灣大學政治學科卒業

経 歴；

- 1980年 - 1982年 外交部北米司（局）職員
- 1982年 - 1986年 駐ニューヨーク辦事處三等秘書（書記官）
- 1986年 - 1989年 駐ニューヨーク辦事處二等秘書（書記官）
- 1989年 - 1992年 外交部國際組織司（局）課長
- 1992年 - 1995年 外交部國際組織司（局）副司長
- 1995年 - 1998年 駐バンクーバー辦事處處長
- 1998年 - 2001年 駐カナダ代表處副代表
- 2001年 - 2003年 外交部國際組織司長（局長）
- 2003年2月 - 9月 外交部西アジア司長（局長）
- 2003年 - 2008年 駐チェコ代表處代表
- 2008年 - 2010年 外交部主任秘書
- 2010年5月 - 2012年5月 外交部常務次長（事務次官）
- 2012年5月30日 台北駐日經濟文化代表處代表

台北駐日經濟文化代表處

Taipei Economic & Cultural Representative Office in Japan

拝啓 初夏の候、ますますご清栄の段お喜び申し上げます。

さて、私儀

このたび 台北駐日經濟文化代表処の代表を辞任し、本国へ帰ることに
なりました。

2008年9月馬英九総統の指示により来日し、約3年8ヶ月の歳月が瞬
く間に過ぎました。皆様のご支援とご協力のおかげで、馬総統の言葉通
り、「台日関係は40年来一番良い時期」であります。

顧みますと、この日本駐在は私の30数年間の台湾外交官の生涯の中で、
最もすばらしい経験となりました。

去りがたい思いがありますが、台湾の母親はすでに90歳を越えており、
私の帰国を待っております。ここに皆様にお別れを申し上げることに致
しました。

新任の沈斯淳代表は、馬総統が信頼している経験豊かな外交官です。
何卒引き続きご支援を賜りますようお願い申しあげ、ますます台日関係
が発展するよう心から願ってやみません。

在任中は、皆様にご大変お世話になりました。お別れの言葉は、感謝の
一言に尽きます。さようなら

敬具

中華民國 101 (西曆 2012) 年 5 月 末 日

馮 寄 台

双十國慶節祝辞

台北駐日經濟文化代表處

代表 沈 斯淳 閣下

十月十日は中華民國の建國を祝う双十國慶節記念日であります。

孫文先生が一九一一年の辛亥革命によって中華民國を建国し、今年は一〇一回目の國慶節を迎えることとなりました。

今年台湾では一月十四日に總統選挙を実施し、馬英九總統が再選されました。台湾では国民による直接投票で選出される總統選挙が一九九六年以来、これまでに五回実施されましたが、今回は平和的・理性的に選挙活動が進められ、台湾の民主主義が一層

成熟したと国際社会からも高い評価を受けました。

再選された馬總統は、五月二十日に就任四周年を迎え、二期目の任期に入りました。私は馮寄台・前駐日代表の後任として、五月三十日に駐日代表に着任しました。私は今回、初の日本駐在ですが、以前より外交部常務次長（事務次官）として対日外交に関わってきました。東京羽田空港に降り立ったとき、在日台湾華僑および日本人の皆様の熱烈な歓迎を受け、非常にありがたく感じたと同時に、良好な台日関係を発展させていくことへの重責を、強く実感いたしました。

昨年は、東日本大震災により、日本は未曾有の被害を受

けました。台湾も日本と同様に地震等の自然災害が頻発する国であり、台湾では以前、震災や水害が発生した際には、日本から大きな支援が寄せられたことから、台湾の人々は、日本で発生した震災をわがことのように受け止め、自発的に救援物資や義捐金寄付などの支援活動を行いました。

私も着任以来、東北の被災地を何回か訪問し、今年の八月には台湾赤十字が支援して建てられた福島県相馬市の災害公営住宅「相馬井戸端長屋」の竣工式に出席し、台湾からの支援の成果を確認してまいりました。また、日本の震災復興が力強く着実に進みつつあることが実感できました。

そのほかにも台湾の民間の慈善団体が被災地の支援活動に

熱心に取り組み、現地の人々から大変感謝されたことを、私は台湾の駐日代表として大変誇りに思います。このような台湾と日本の友好の絆をこれからも大切にしていかなければなりません。

台日関係は、前任の馮代表の三年余りの在任中に、駐日代表處札幌分處および台北文化センターの開設、台日間のワーキングホリデー協定、投資協定、航空自由化協定等の締結、そのほか日本の国会における「海外美術品等公開促進法」の成立によって台北の國立故宮博物院の文物が日本で展示ができるようになるなど大きな進展がありました。

私はこれまで諸先輩の皆様方が築き上げてこられた良好

な基盤の上に、台日関係の新たな局面を切り開いていく所存であります。また、台日関係進展のために日本の国会で

加し、約一四五万人となり、今年は昨年の二五〇万人を大幅に上回る三〇〇万人の目標を達成できる見通しです。

台日企業が提携して中国大陸及び第三地市場に共に進出するビジネスモデルがますます広がることを期待しています。

長年にわたりサポートしてく

ださっている日華議員懇談会

経済面では、昨年九月の台

の平沼赳夫会長をはじめとす

湾投資協定締結後、さらなる

文化面では、今年五月に当

る日本の衆参両院の国会議員

台日経済連携を推進していく

駐日代表處「八田與一展」を

の先生方に、厚く御礼申し上げ

ため、昨年一二月に行政院が

開催いたしました。八田氏は、

げます。今後とも引き続き良

「台日産業連携架け橋プロジ

石川県出身の土木技師で、日

好な台日関係を共に推進、発

エクト」を認可し、今年三月

本統治時代の台湾で、嘉南平

展させていくためにお力添え

二一日に台湾側の投資の窓口

原を潤す烏山頭ダムと灌漑水

を賜りたく存じます。

である「台日産業連携推進オ

路の建設に大きな貢献を果た

台日間の往来は、昨年十一

フィス」が開設されました。

しました。

月に締結した航空自由化協定

昨年四月から台湾への投資

鳥山頭ダムには昨年、八田

によりオープンスカイが実現

件数は四四一件で、過去最高

與一記念公園が開園し、今年

し、今年春から新たに静岡、

を更新しました。

四月には八田技師と同じ石川

鹿児島、富山、函館、旭川、

また、日本企業が「両岸経

日友好「絆の桜」植樹式にご

釧路などの各都市と台湾を結

済協力枠組み協議（E C F A）

参加いただきました。

ぶ航空路線が次々と開設され

の関税減免措置等を活用して

鳥山頭ダムは私の故郷であ

たことにより、今年上半年の

台湾を大中華市場のゲートウ

る台南市にあり、このような

形で台日間の友好交流が深まることを大変うれしく思います。

そのほか、今後の台日間の主な文化交流は、来年四月に宝塚歌劇団の台湾公演を予定しているほか、二〇一四年には日本で国立故宮博物院文物の特別展開催を予定しています。

最後に、皆様のご健勝と、ご多幸を祈念し、中華民国と日本国の一層の友好と発展を願ひ、私の挨拶とさせていただきます。

【お知らせ】

○本年は中華民國建國一〇一年に当り雙十國慶祝宴が開催されました。

十月四日 横濱華僑各會慶祝中華民國建國一〇一年國慶酒會・施梨鵬會長

ローズホテル横浜・〇四五(六八一)三三一 一八時より

十月五日 台北駐日經濟文化代表處 國慶祝賀レセプション 沈斯淳閣下

ホテルオークラ「平安の間」 〇三(三五八二)〇一一

台北駐日經濟文化代表處・沈斯淳閣下のご挨拶。日華議員懇談

會會長・平沼赳夫衆議院議員、公益財団法人交流協會會會長・大

橋光夫昭和電工相談役の御祝辞があり、日本中華聯合總會・毛

利友次會長の乾杯。弊協會役員・会員も多数参加されました。

十月七日 中華民國留日東京華僑總會・陳木川會長、中華民國留日東京同

學會・主催。於・東京中華學校・九時四五分国旗入場

○社団法人亜東親善協会「忘年の集い」本年五月總會で第五代会長に就任

された元内閣総理大臣・安倍晋三衆議院議員は、台北駐日經濟

文化代表處・沈斯淳閣下をはじめ各界のご來賓をお招きし、多

方面での交流の拡大を図る所存です。左記の通り開催致します。

十二月十一日(火曜日) 一八時より明治記念館「蓬莱の間」

会員・役員の皆様の御友人・知人の方にお声掛け戴き、盛大な

忘年の夕宴を開催致したく存じます。ご出欠は事務局まで。

【編集後記】季刊「亜東」秋季号

○会員よりのご寄稿が少なくなっております、台湾・協会に関する歴史
体験記録、旅行記、写真、ご意見等お待ちしております。

○平成二五年「季刊亜東新年号」会員各位のご寄稿をお待ちしております。

一頁・一三〇〇文字。二頁・二六〇〇文字。写真も掲載可能です。

メールにて締切日十二月十一日(火)事務局までお願い申し上げます。

○協会の活性化の為、会員の拡充を図っております。会員各位よりのご紹介
をお待ち致しております。宜しくお願ひ申し上げます。

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民國總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成24年 秋季号 (No.43)

発行日 : 平成24年10月15日

発行所 : 社団法人亜東親善協会

編集人 : 南部晴彦・広報担当理事

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770

Mail: atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。
日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。
台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。